

【別紙様式 I】 令和7年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立緑ヶ丘小 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 宗形 恵里

学校教育目標

学校経営の方針

心豊かで たくましく 自ら学ぶ児童の育成

○ESD(持続可能な開発のための教育)の視点で教育課程を実施し、自ら考えて行動する力の育成に努めます。
○自他の命を大切に、互いのよさを認め合う心情を育む「ダイバーシティな学校づくり」を目指します。
○全職員の協働体制と、学校・保護者・地域の協働『TEAM MDR』で、児童を育みます。

今年度の重点目標

確かな学力を育む
・基礎基本の定着を図るための授業づくり
・児童が主体となる学びづくり
・個別最適な学びに向けた環境づくり
・GIGAスクール端末の活用

〈健やかな体を育む〉
・「いのち」を守る安全教育の推進
・すこやかな体をつくる健康教育、食育の推進
・元気な体をつくる体力向上の推進
・安心安全な学校環境づくり

〈チームで育む〉
・「地域とともにある学校づくり」の推進
・学校運営組織の活性化
・幼保小中高の学びの連携の推進

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
学校教育目標の内容・取組	1・2・3	全教育活動を通しての取組 授業参観・学級懇談会 学校だより等で周知	内容や取組は、理解され目標が達成されている。	来年度もグループを4グループ編成にし、重点課題の達成を目指していく。
学校だより、学年だより、HP、緊急アプリ配信	3	教育活動の紹介 児童の健康・安全の情報共有 地域との連携	年間の教育活動の様子を、各種おたよりやホームページ等で公開し、十分理解され、ほぼ目標が達成されている。	学校ホームページの充実を図り保護者の要望に応える。今年度から導入された連絡アプリを活用し、お手紙の配付も実施していく。
人を思いやる心、いのちの大切さ	1・2・3	道徳教育の充実 人権週間の取組 児童教育相談の実施	今年度は県の事業を活用し、講師をお呼びした講演会を実施した。学年、学級経営の中で、学校生活における安心・安全について考え、互いを思いやる心や自他ともに命を大切にする授業を展開した。	学校全体で授業や生活指導を通して、思いやりのある児童を育てたい。定期的なアンケート実施を継続し、児童教育相談もより充実させる。
家庭学習の習慣化	1	学習課題の計画、準備、実施 長期欠席者への授業支援 自主学習ノートの掲示	毎日の家庭学習は、定着しつつあるが個人差はある。児童の実態に応じた個別対応も行った。GIGAスクール端末の常時持ち帰りをはじめたことにより、端末を使っでの家庭学習の実施や長期欠席児童には端末を通して課題の指導をすることができた。	今後は、自主学習ができるような指導を行うことで、主体的な家庭学習の充実を目指す。そのために家庭学習への保護者の理解や協力を継続して呼びかけていく。
規則正しい生活習慣や礼儀正しい行動の定着	2	学級指導や保健だより等での指導	規則正しい生活習慣が健康な体にとって大切であることと、礼儀正しい行動が円滑な人間関係にも必要であることを指導した。	生活リズムがつかめていない児童に対して、家庭との連携をより一層図っていく。円滑な人間関係を築けるように礼儀正しい行動の大切さも引き続き指導していく。

安全教育、教育活動への配慮	1・2・3	生活委員会児童の活動 全職員が共通理解し、毎日の安全な学校生活を目指す	危機管理意識を高くもち、全教育活動で取り組んだ。今年度は特に新しく仮設校舎に移動し、新たな避難訓練等を計画し、実施した。また、継続して、月1回程度、災害を意識したシェイクアウト訓練を実施した。	安全の行事の反省をしっかりと行い、更によいものになるよう工夫改善を図る。「自分の命を自分で守る」行動を児童に繰り返し指導する。また、研修により教職員の安全教育への意識向上も図る。食物アレルギー対応研修会を来年度も継続して行う。救急救命法の講習会と同日に行い、研修の充実を図る。
子どもたちに適切な配慮、支援、指導を行っている。	2・3	チームでの対応 報告・連絡・相談の徹底 保護者への丁寧な対応	概ね理解され目標が達成されている。より適切な対応を目指し、連絡掲示板の活用や職員会議等での情報共有、共通理解、研修による指導力向上を図った。日々子どもたちと関わる立場として、より一層先を見通した指導を全教職員で行えるようになるとうい。	子どもたちの状況に合わせ、必要な支援を全職員でできるように共通理解を図ること、研修により、指導力向上をより一層図っていく。
わかりやすい授業の工夫	1・2・3	授業研究 教材研究	GIGAスクール端末の導入も5年目を迎え、意見交流や学習発表の際の活用も日常的になってきた。定期的に年間計画を見直し、児童の状況に応じた学習指導ができるように、また、児童が主体的に自己を表現できるように授業研究を進めた。	カリキュラムマネジメントを全職員で行い、児童の状況にあった授業の工夫を進めていく。来年度も児童が主体的に自己表現ができるよう研究を進めていく。合わせて、教員も主体的に研究に取り組むことができるよう取組の工夫を行っていく。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

- ・各項目に関して児童、保護者の回答は、押しなべて良好な意見であり、教職員の方々の努力の結果と思う。
- ・互いを認め合い、生き生きと学校生活を送っている。
- ・学校ホームページ、学校だより等で様子はよく伝えていると思うが、これからもより多くの情報発信を保護者に届けてほしい。
- ・先生方が児童の様々な状況について、しっかりと取り組んでいると思うが、相談ができていない児童が一定数いることは気になる。より一層、相談できる体制づくりを望む。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

学習に関すること

- ・低学年から、学習に不安を感じている児童がいることから、基礎的な内容がしっかりと理解できるよう、児童一人一人に合った取組を行っていく。
- ・勉強を頑張っていると感じている児童が多いが、保護者との間に差があることから、家庭との連携を取り、学習習慣、家庭学習に進んで取り組めるよう情報発信を行っていきたい。

学校生活に関すること

- ・目標を立てることの意義を理解し、自分でめあてを考えることができるように指導を行っていく。
- ・悩みや困りごとがあっても、しっかりと伝えられている児童がいる一方、学年が上がるほど、悩みを抱え込み、登校を渋ってしまう児童もいる。引き続き、子どもたちに頼りにされるよう、寄り添った指導を行っていきたい。

全体として

- ・クラスの様子については、行事を中心に今後も、ホームページ、学年だより等を通して情報発信を行っていききたい。
- ・お便りのデジタル化については、積極的に実施していききたい。